

SPiRiT

スピリット

Shimane Physical Therapy

Vol.05 2024.2

第20回島根県理学療法士学会

ともに育む

～これまでと、これからの理学療法と私たち～



Contents

県士会学会報告

- 第20回：開催報告 1
- 第21回：次期学会のお知らせ 2

ニュース

- 専門領域部会スタート 4
- 県士会事務所開設 6

スペシャル会員紹介

- 曾我部雅也さん 8

学会開催報告



学会終了
のお礼

第20回 島根県理学療法士学会

ともに育む

第20回島根県理学療法士学会
学会長 高見由美

～これまでと、これからの理学療法と私たち～

第20回島根県理学療法士学会を令和5年5月20日・21日に出雲市民会館を会場に開催いたしました。昨年同様ハイブリッド・オンデマンド開催とし、新たな試みとし子育て世代の方にも参加していただけるよう、『お仕事参観日』と称し、親子で参加いただける形をとりました。

今学会のテーマは「ともに育む～これまでと、これからの理学療法と私たち～」としました。島根県理学療法士会の50年の歩みを振り返り、そして、第19回で撒いた島根県理学療法士会のミッションスローガン「あなたの“大切”を彩る～」の種を芽吹かせる育む場と考えました。講演内容は「キャリア・小児連携・健康増進・専門領域部会・自立支援」としました。

島根県学会のミッションである「学会を通じて“1”を作り出す」ため、皆様の1アクションに繋がるよう思いを込めた企画でした。学会運営部の皆様や士会員の皆様の発信力のおかげもあり、計706名（内県内会員233名）の方にご参加いただくことができました。閉会後も参加者の皆様から、多くの共感、1アクションの報告があり、共に学ぶことの重要性、県学会の意義を再認識することができました。

本学会に関わる全ての皆様に感謝いたします。そして、第21回島根県理学療法士学会もどうぞよろしく願いいたします。

これからも、皆さんと共に、学会を通じて“1”を作り出しましょう。



文責：第20回島根県理学療法士学会 学会長 高見 由美

次期学会のお知らせ



第21回島根県理学療法士学会
学会長 廣瀬強志

第21回
県学会

第21回 島根県理学療法士学会

つなぐ

～未来を彩るバトン～

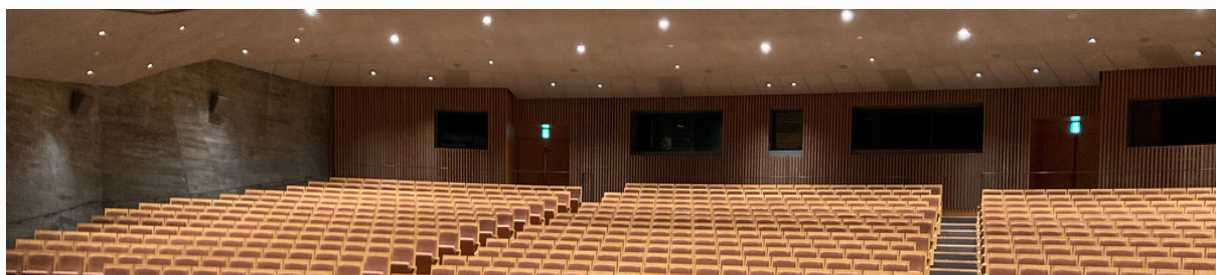
第21回島根県理学療法士学会の学会長を拝命いたしました、医療法人橘井堂津和野共存病院の廣瀬強志と申します。第21回島根県理学療法士学会は2024年5月25日（土）と26日（日）の2日間、島根県芸術文化センターグラントワで開催される予定です。この学会は初めて益田市で開催されることとなります。

地域の住民が健康で充実した生活を送るために医療、介護、福祉、保健などの分野における密接な連携が推進されています。

私たちは多くの課題に向き合いながら、より良い未来を築くために協力し、知識と情報を共有し、共同で解決策を見つけ出していくことが求められています。

この達成には、個人や部署、施設など、どのような立場であっても多職種による連携や協働が欠かせません。そのためには、まず自分自身や自分たち（内側）を十分に理解することが重要です。

また、連携相手や周囲の環境（外側）を理解することも欠かせません。本学会では、島根県で行われている取り組みや現状を知り、連携と協働の必要性を再確認することで、新たな一歩を踏み出す機会につながるような企画を準備していきたいと考えています。



学会は未来への関係や知識をつなげる場でもあります。研究の成果や疑問を他の人と共有し、横のつながりを広げることができます。数年後の自分自身とのつながりを築く「成長」の場であり、次世代へつながる「人材育成」の場でもあります。

横に長く離島もある島根県ではありますが、近年は、オンラインでの参加も可能になり県外を含め多くの方々に参加していただけるようになってきています。

私たちのミッションである、

「あなたの“大切”を彩る」

の実現に向けて、周りの人々や未来へバトンをつなぐような、新たなつながりが多く生まれる学会にしたいと考えます。

多くの皆様にお会いできることを、心よりお待ちしております。

第21回島根県理学療法士学会

会期：2024年5月25日・26日

演題募集期間：11月1日から30日迄



文責：第21回島根県理学療法士学会 学会長 廣瀬強志

専門領域部会スタート

2023年度より開設した専門領域部会について、昨年度は期日を設けて公募しておりましたが柔軟に活動に繋げるため本年度より随時募集とし、公募を開始しました。

また、未設置の専門領域部会の設立を支援する目的で「準備会」についても活動を認証することとしました。運営幹事、部会員共にメンバーを募集中です。

専門領域を深めたり、地域に皆さんの力を活かしていくチャンスです。

皆様からのご応募をお待ちしています。

運営幹事の基準	
必須条件	
認定理学療法士もしくは専門理学療法士であること	
選択条件（2項目以上）	
A	ブロック学会以上で当該領域における2回以上の発表経験を有する（理学療法士関連の学会以外を含む。過去10年以内のものに限る。）
B	当該領域における査読付き学术论文を有すること（邦文・欧文を問わない）
C	修士以上の学位を有すること（修了領域は問わない）
D	当該領域における団体の現職の役員・委員であること（学会等）
E	現場において当該領域をリードする職務を有すること（部門リーダー等）

今回はいち早く立ち上がった内部障害領域専門部会の原さんにお話を伺いました。

内部障害専門領域部会 代表幹事 原 祐樹 先生

（はら ゆうき）



内部障害領域専門部会の趣旨

「島根県理学療法士会、会員の資質向上を図り、内部障害を持つ方に対し、有益な理学療法等を提供するための知識と技術の向上を目的とする。」です。

諸先輩方に立ち上げていただいた、前進の呼吸理学療法研究班の趣旨「島根県理学療法士会、会員の資質向上を図り、呼吸障害を持つ方に対し、有益な理学療法等を提供するための知識と技術の向上を目的とする。」の気持ちを受け継ぎ活動範囲を拡大していく気持ちを込めたものです。

内部障害領域専門部会って？

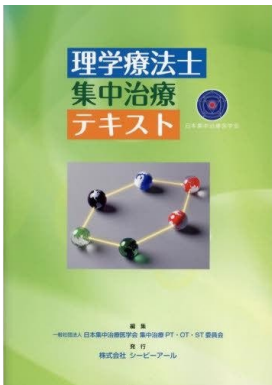
専門領域部会は2023年5月より県士会総会で承認された新しい組織です。内部障害領域専門部会は、「呼吸・循環・代謝」という3領域を担当する幅広組織となります。

現在は代表幹事である島根大学医学部附属病院リハビリテーション部の原祐樹、幹事の島根大学医学部附属病院リハビリテーション部の今岡圭、松江赤十字病院の須山竜二の3名を中心に運営にあたっています。

本年度の活動予定

本年度は新しい取り組みの年度であり、まずは地に足を付けるところから開始しようと考えています。ベーシックコース、アドバンスコースの2コースの研修会を開催します。

ベーシックコースは11月に県内の認定療法士を講師として、西部地区で開催しました。急性期在宅問わず使用する、神経筋疾患の呼吸管理の講義と、NPPVやM-IE、LICなどの呼吸、排痰に関わる装置を実際に使用しての研修を行いました。



「PHILIPSホームページより抜粋」



「カーターテクノロジーホームページより抜粋」

アドバンスコースは1月に急性期リハビリテーションとして理学療法士集中治療テキストの編集にも携わられた、岡山赤十字病院の小幡賢吾先生をお招きしてご講義いただく予定としています。

部会員特典としては

- ① 内部障害専門部会の研修会には1000円OFFでの参加
- ② 定期的に会議を行いますので、参加いただいて運営に関わる事も可能
- ③ Slack上で「部会員意見箱」で気になること、やりたい事などを投稿していただけます。

部員になりたい方はこちらをスキャン



問い合わせ先
島根県理学療法士会 内部障害
領域専門部会 事務局
spt.naibu@gmail.com

文責：内部障害専門領域部会 代表幹事 原祐樹

県士会事務所開設

事務所について

島根県理学療法士会の事務所を開設しました！

島根県理学療法士会では、かねてから懸案であった事務局機能強化の一環として士会事務所を整備し、2023年4月1日に開設しました。「あなたの大切を彩る」というミッションスローガンを掲げる中で、組織の要である事務局機能を高め、ますます士会活動を発展させたいと考えています。会員の皆様はじめ、島根県理学療法士会に関連のある皆様方にとって親しまれるように活用します。

会員の皆様を対象として、改めて内覧の機会を設けたいと思っておりますが、新たに整備した、士会事務所をご紹介します。

所在地

住所：〒693-0065 島根県出雲市平野町557番地2 2階B号室

TEL：0853-25-7178 FAX：0853-24-3018



出雲ドームから北に200メートルほど進んだところです。

事務所外観

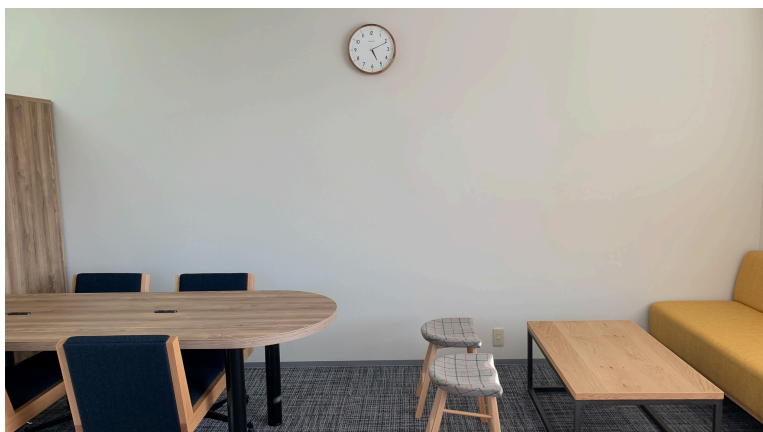


Googleマップより引用



ロゴをあしらったドアが目印です。

事務机・来客用のスペースもあります。



2022年に行われた50周年記念式典の表彰者の皆様から寄贈いただいた時計を飾っています。プレゼンテーションやオンライン時には壁に映写が可能です。



ミーティングデスク

文責：島根県理学療法士会 副会長 嘉田将典

スペシャル会員紹介

曾我部 雅也 さん
(そがべ まさや)

出雲市立総合医療センター 理学療法士

役職：病院総務課 経営企画係 係長

取得資格：医療経営士3級



現在のキャリアのきっかけや
ここまでの活動を教えてください

理学療法士になって17年くらい経ったでしょうか。

最初の10年くらいはとにかくリハビリテーション関係の研修会や学会への参加・運営等で日々が過ぎていったように思います。臨床でなかなかうまくいかない焦りから、知識と技術を磨きたくて必死でしたね。

この頃は小川さんや江草さんなど、今の県士会の中核にいる皆さんとご一緒することが多かったです。江草さんとは「RE-ING（リング）」というリハ専門職向けの勉強会の世話人を一緒にしていて、運営や企画についても色々と勉強させてもらいました。

10年目くらいになると、リハ専門職としての個人の努力だけでは限界を感じて、多職種・地域連携、診療報酬制度や医療政策、病院の運営・経営のあり方に興味がシフトしていきました。

患者さんに関わる人や仕組みっていっぱいあって、全体がうまく回らないとどこかで途切れちゃうんですね。



例えば、自院に入院された患者さんのリハ担当になったとして、十分な準備ができていないのに「在院日数」とか「看護必要度」などの施設基準を守るために追い出されるように退院が決まってしまったらどうでしょう。回復期リハ病棟の対象疾患でないので急性期から直接退院するしかないと言われ、もう少しでいいから期間がほしいと訴えても何も変わらない。こんな経験が何度もありました。

これって結局、患者層と病院機能のミスマッチだったり、ベッドコントロールや地域連携などがうまくいっていないなど、体制や仕組みの問題だったりすることがよくあります。それをなんとかしたくてどんどん掘り下げていたら、理学療法士として働くことへのこだわりが薄れていったように思います。

地域での活動としては、職場の医療職と地域のケアマネとの情報交換の場を作りたくて、信頼するケアマネさんと一緒に職場地域で活動する小さな自主団体を立ち上げ、入退院連携や地域課題の検討・共有などに取り組みました。今は出雲全域の医療・介護・福祉専門職向けの研修会や交流会を企画する別団体を数人の仲間と立ち上げ、代表をさせてもらっています。



職場では、リハ部門の情報システム管理や診療報酬改定対応などに携わっていました。また、上述したような患者層と病棟機能のミスマッチやベッドコントロールに関する課題をなんとかしたくて、試行錯誤しながら看護部長や総務課長、医事課長、地域連携課長などに何度も相談を持ちかけていた記憶があります。また来たかと言われていましたが、熱意は買ってもらえていたようです（笑）

そうこうしているうちに色々なタイミングが重なり、急性期病棟から地域包括ケア病棟への病棟機能転換のプロジェクトに携わることになりました。総務課の兼務辞令のおまけ付きで（笑）それから午前中は理学療法士、午後は総務課職員という生活を5年くらい続けてきました。

その間、病棟転換や地域医療構想への対応、訪問診療・訪問リハビリ・訪問看護などの在宅医療部門の立ち上げ、新型コロナ対応など、様々な経験をさせていただきました。医療の視点も持ちながら、事務局目線でどう全体を調整して実現していくか、医療職に対しても事務職に対しても通訳みたいなポジションだったように思います。昨年4月に正式に病院総務課に異動し、今は病院の経営計画の策定等を担当しています。

2

仕事をする上で、大事にしていることを教えてください また、やりがいに感じることを教えてください

特に若いうちは何でもやってみるということでしょうか。興味のあることはもちろんですが、声をかけてもらったことは取りあえず引き受けてみる。やってみて向いていなければそれはそれで良い経験ですし、やってみたら意外と向いていたということもあります。失敗しても若い時の方がダメージ少ないですし、失敗もせずに歳だけとると先々しんどいですからね（笑）

新しいこと、難しいことほど積極的にチャレンジした方が良いと思っています。これは私キャリア・アンカーが「純粋な挑戦」だということも影響しているのかもしれませんが。最近は中間管理的なポジションにもなってきたので、なんでも自分でやらずに人に頼る・任せるということも意識しないといけないんですけどね。



「目的と手段を分けて考える」ということも大切だと思っています。私にとって「理学療法士」という仕事は、患者さんに貢献するための1つの手段でした。理学療法を通して患者さんに貢献できたこともあったと思いますし今でも大好きな仕事ですが、私が成したい目的のためには病院事務職員として仕事をするという手段が効果的だと考え、今のキャリアを選択しています。

せっかく資格を取ったのにもったいないと言われることもありますが、私にとっては資格そのものよりも資格を取得する過程やその後の仕事の中で得た知識や経験、人脈が大きな財産で、それは今の仕事にも大きく役立っています。いつも「何のために」を大切に仕事をしたいですね。あとは、「自分の手の届く範囲の人たちを大切にすること。家族はもちろんですが、友人や一緒に働く人たち、担当する患者さんなど、まずは自分の手の届く人を大切にすることが一番だと考えています。大きな目標や目的を持つことも良いことですが、そのために大切な人を大切にできなくなるのは嫌ですね。忙しいとつい忘れてしまいそうになることもありますが、いつでも初心に帰れるようにTODOリストの一番上に掲げています（笑）



仕事とプライベートのバランスのとり方や、息抜きの仕方などで工夫していることがあれば教えてください

バランスと言われると、取れてないでしょうね（笑）家族の協力があって今の自分があると思います。ただ、仕事とプライベートを明確に分けるつもりもなく、どちらも自分の人生ですからね、つながり合っていますし、影響し合っています。



例えば、音楽や映画、大切な人や家族との時間、仕事を通して出会う沢山の人たち、様々なライフステージでの社会とのつながりなど、全てのことから様々な経験を得て日々変化していくことが楽しいというか。全部ひっくるめて自分の人生を彩るものだと思うので、公私混同万歳です（笑）ただ、息抜きは大切だと思っていて、サイクリングに出かけたり、音楽や映画を楽しんだり、大好きなコーヒーやクラフトビールを飲んだり、家族や仕事の仲間と美味しいものを食べたり、いろんな楽しみを持つようにしています。というか、なんでも楽しんで生きているだけかもしれません（笑）

4

若い会員へのメッセージをお願いします

こういうのって、飲み会とかで上司からくどくど言われると嫌になる類のやつですよ…（笑）なのであまり気が進まないんですが、あくまでも私の経験の範囲と価値観でしかないという前提で書きます。とにかく詰め込んで仕事するという無茶が効くのは若いうちなので、特に20代のうちはなんでもやってみたらいいと思っています。

仕事も遊びも。寝てなくても元気なのはほんとに若い時だけ。そこで量をこなしておくと、30代以降の体力が全く違いますね。質は量からしか生まれません。意外な経験がその後の人生で生きてきますし、回り道だろうがなんだろうが無駄なものなんてありません。



そして、違う職場や職業、世界で生きている人たちとの関わりを持つことは大切なことだと思います。医療職に限ったことではないかもしれませんが、似た価値観や考え方を持った集団の中だけで生きていると、世間知らずというか狭い世界の中のことが全てかのように感じられてしまいます。同じ職場でも違う職種の人、同じ職種でも違う職場の人、職場も職種も違う人、様々な人と出会ったり話したりする時間や機会を持っておくと、様々な気付きがありますし視野が広がりますね。特に人数の少ない職場で同世代が少ないと、悩みや苦しさを誰にも話せずに辛くなってしまうこともあるかもしれません。そんな時に職場以外の集団に所属していたり仲間がいれば、逃げ場にもなります。ちゃんと逃げ場を作っておくというのも大切なことだと思うんです。もっと勉強したいという人はそういう人たちがある集団に身を置くこともできるわけです。

島根県理学療法士会もそういった場の1つだと思うんですよね。

掲げられている「あなたの“大切”を彩る」というミッション、この懐の広さはすごい（笑）同じ理学療法士でもその働き方や生き方は千差万別ななかで、切磋琢磨できたり寄り添い合えたりする仲間に出会えるって良いなと思います。

編集後記

今年のSPiriT（スピリット）は1部に学会報告、ニュース、スペシャル会員紹介を、2部でインタビュー形式の会員紹介を、2部構成でお届けするような形になりました。県士会の皆様とはじっくりお話しすることが今までなかったので、新たな発見ができ、大変勉強になりました。

会員紹介（スペシャル会員を含めて）の人選は広報部の独断ですが、皆さんそれぞれ個性があり、病院・施設は違えども何か光るものを持っているなど感じ、声を掛けさせていただきました。記事を提供していただいた皆様、広報部にご協力していただき、誠に感謝しております。コロナ禍が過ぎてもまだ他施設間では顔を付き合せての情報交換は少ないご時世ですが、このような形で交流ができたことを喜ばしく思います。

県士会会員の皆様には機会があれば、記事依頼をすることがありますので、よろしく願います。

SPiriT編集 伊藤 郁子

[ご協力のお願い]

県士会の“つながり”を作っていくためにも、原稿依頼をさせていただくこともございます。ご協力をお願いいたします。

このような内容でまとめて欲しいなどご要望がございましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。



県士会ホームページ



県士会Instagram



県士会Facebook



県士会X（旧Twitter）

お問い合わせ先

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89 - 1
島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部
島根県理学療法士会 広報部 松本拓也
メール：spta.information@gmail.com